

● シリーズ 私の見た日本 Vol.159

京都のまちなみと日本の住宅について

賈曉鵬

私の日本に対する印象はすべて京都からはじまります。

日本語学校に入学するため、最初に訪れた日本の町は京都でした。昔からの伝統的な町に憧れていた私は、バスから降りて川や邸宅などが目に入ってきたとき、漫画作品の中の景色がそのまま目の前に現れたような感覚になり感動したことを覚えています。

京都には2年間滞在しました。当時は、休日に自転車でゆっくり京都を回るのが1つの楽しみでした。京都は寺や神社などの歴史的・伝統的な建物が非常に多く、普通に歩いているだけでいつの間にか寺が見つかるくらいに多いです。

京都を回るうちに感じたのは、日本の伝統建物は非常によく保存されているということです。どの寺や神社に行っても、清潔できれいに掃除されており、神の領域の神々しさ、崇高さが強く感じられます。そして伝統建物

だけでなく、観光客への案内板や注意警告板なども木材を使用して古い様式で作られており、まるで伝統建物と一体化したように見えました。これは中国の観光地でよく見る違和感を強く感じる金属製の看板とは全く違います。中国もこの点を見習えば、もっと伝統的な雰囲気を保つことができるのではないかと思います。

看板といえば、京都で非常にありがたい制度があります。それはお店の看板の様式や色などを古都の雰囲気に合わせるように制限する屋外広告物条例です。セブンイレブン、ローソン、マクドナルドなどのチェーン店も看板を落ち着いた色に抑えて、様式も伝統的な感じにデザインされています。京都では高い建物もほとんど見かけません。唯一の現代的建造物である京都駅も、建設当時には反対の声が多かったと聞きます。こういった様々な努力があつてこそ、京都は今でも古

都の姿でいられます。日本のこのような伝統への重視は非常に感心するところです。

日本に5年間住んでみて、感じたことがたくさんあります。その中で最も感心したことは、日本は空間利用がとても優れているということです。賃貸住宅の平均的な専有面積を見ると、日本は中国と比べて狭いという印象を受けます。例えば、一人暮らす部屋で比べると日本では大体20㎡前後ですが、中国では40㎡前後で、20㎡以下の物件は極めて少ないです。中国の2LDKは平均で80㎡前後ありますが、日本ではなんと50㎡に収まります。日本の賃貸住宅は中国と比べて面積は半分くらいですが、キッチン、浴室、ベランダ、洗濯機置き場などすべて揃っていて、住宅としての機能をきちんと果たしています。面積的に見るとスペースが足りなくて狭い家を想像しますが、実際は動線が簡潔で工夫された間取りで、そして日本で流行っ



ている収納術で空間を効率よく利用し、温もりのある家庭の雰囲気と空間利用の知恵を感じます。

住宅だけではなく、公共施設でもこの点がよく見られます。建築面積が小さいにも関わらず、豊かにかつ機能をきちんと果たした空間を創り出します。

例として挙げたいのは、今住んでいる地域にある眼科です。延床面積は30㎡ほどしかない小さな眼科ですが、入り口でスリッパに履き替える場所、待合室、受診する場所と薬をもらう場所など、これらがすべて30㎡もない部屋に収まっています。小さいにも関わらず、機能ごとにスペースを分けたことで、受診がとてもスムーズにできたのがとても不思議で、関心しました。

もう1つ感じたのは、建物に対する日本人の愛着というものです。学校の近くの住宅地に住んでいる私は、学校までの道を歩いて、

いつも見て関心するものがあります。それは、1軒1軒の家の玄関前に飾っている観葉植物と盆栽です。日本の伝統的な一戸建てで、何十年も経つ古い家がほとんどです。長年の浸食を受けて、かなり老朽化した家が少なくありません。しかし、その古い住宅の集まった町を歩くとときに感じたのは、ぼろぼろで殺風景の町ではなく、家への愛が溢れる温かくて活気のある町なのです。

しかし、日本建築で比較的に弱いところも感じていました。1つは遮音性が悪いところです。今まで何回も引っ越ししてみて、騒音が気になるので借りた部屋はほとんど鉄筋コンクリート造を選びましたが、どの部屋も隣の音が気になります。最初の家は、隣からコンセントを抜き差しする音までできて、非常に驚きました。そしてもしかしたら自分の生活音も隣に聞こえているかもしれないという不安に陥ります。鉄筋コンクリート造でさえ

このような遮音性でしたら、軽量鉄骨や木造などはなおさらではないかと思えます。

インターネットで検索してみると、騒音に悩む人が多くいることが分かります。中国の住宅では、大きな声で話さない限り隣に聞こえることはまずありません。蛇口を回す音や、コンセントを抜き差しする音などももちろんありません。それはレンガ造りだからかもしれないと思えます。しかし、近年鉄筋コンクリート造の住宅も増えてきていますが、騒音はそれほど問題になっていません。日本建築は耐震性能が非常に高いので、遮音性を上げる技術ももちろん持っていると思うのでとても不思議です。でも、遮音性が低いため、日本人は常に隣の迷惑にならないように気をつけながら生活する性格となったと推測できると考えられます。

